



Title	内陸アジア言語の研究 XXIII 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 2008, 23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/18277
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『内陸アジア言語の研究』執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で 20 ページ（和文では 400 字詰め原稿用紙で 50 枚、欧文では約 6000 語）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。なお、投稿の際、800 字以内の論文概要を付し、原稿の分量（和文原稿の場合、400 字詰め原稿用紙に換算した総頁数、欧文原稿の場合は総単語数とする）と図版枚数について明記すること。
4. 投稿の締め切りは毎年 2 月末日とする。査読の結果は追って通知する。
5. 入稿について
印字したワープロ完成原稿とともに電子データファイルを入稿する。ワープロにない漢字・記号などの部分は当該箇所を空けて印字原稿に朱筆で指示する。写真・図版等は版下として利用に堪える鮮明なものを用意されたい。手書き原稿も受け付けるが、編集にかかる実費を請求する場合がある。
 - (1) Macintosh 使用の場合
あらかじめ指定フォントで作成された原稿を入稿するのが望ましい。利用するワープロソフトの種類を編集部に連絡されたい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントを編集部から配布する。
 - (2) MS-DOS, Windows 使用の場合
Microsoft Word ファイルでの入稿が最も望ましいが、テキストファイル形式に変換したものも認める。
 - (3) 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、標題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。以上はあくまでも原則である。不明な点は編集部にお問い合わせされたい。
6. 書式として、以下の統一方針を定める。
 - (1) A5 版横組み、奇数頁起しとする。
 - (2) 句読点は「、」を用い、「、」は用いない。
 - (3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文などで必要な場合のみにとどめる。
7. 原則として、著者校正は 1 回のみとし、再校は編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原稿の増減は認めない。
8. 抜刷は作成しない。執筆者には本誌 10 部ずつを献呈する。

2008 年 7 月

執筆者紹介

Zsuzsanna GULÁCSI

Associate Professor, Northern Arizona University 美術史・マニ教絵画史専攻

松井 太 (Dai MATSUI)

弘前大学人文学部准教授 東洋史学専攻

松川 節 (Takashi MATSUKAWA)

大谷大学文学部教授 東洋史学専攻

中村 淳 (Jun NAKAMURA)

駒澤大学文学部准教授 東洋史学専攻

George-Jean PINAULT

Directeur d'études à l'Ecole Pratique des Hautes Études

印欧比較言語学・トカラ言語学専攻

Simone-Christiane RASCHMANN

Wissenschaftliche Mitarbeiterin, Akademie der Wissenschaften zu Göttingen

トルコ文献学専攻

荣 新江 (RONG Xinjiang)

北京大学中国古代史研究中心教授 中国史学専攻

西村 陽子 (Yōko NISHIMURA)

国立情報学研究所特任研究員 東洋史学専攻

Volker RYBATZKI

Professor, University of Helsinki アルタイ言語文献学専攻

Jens WILKENS

Hauptamtliche wissenschaftliche Mitarbeiter, Berlin-Brandenburgische Akademie der

Wissenschaften トルコ文献学専攻

内陸アジア言語の研究 XXIII

ISSN 1341-5670

2008 年 7 月 1 日 印刷

2008 年 7 月 11 日 発行

責任編集 吉 田 豊 (京都大学)
Peter Zieme (Freie Universität Berlin)

発 行 者 中央ユーラシア学研究会
〒 560 - 8532 豊中市待兼山町 1 - 5
大阪大学大学院文学研究科 森安研究室内
tel: 06 - 6850 - 5103 / fax: 06 - 6850 - 5103
e-mail: moriyasu@let.osaka-u.ac.jp
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/sial/index-j.html>

取 扱 店 株式会社 朋 友 書 店
〒 606 - 8790 京都市左京区吉田神楽岡町 8 tel: 075 - 761 - 1285
e-mail: hoyu@hoyubook.co.jp
株式会社 東 方 書 店
〒 101 - 0051 東京都千代田区神田神保町 1-3 tel: 03 - 3294 - 1001
e-mail: shop@toho-shoten.co.jp
〒 564 - 0063 吹田市江坂町 2-6-1 tel: 06 - 6337 - 4760
e-mail: kansai@toho-shoten.co.jp

印 刷 所 有限会社 中部ワードサービス
〒 440 - 0865 豊橋市向山台町 10 - 10 tel: 0532 - 55 - 8503
e-mail: cws@mx1.tees.ne.jp

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XXIII

Papers in Honour of
Professor Takao MORIYASU
on His 60th Birthday

Yutaka YOSHIDA : Foreword	i
Zsuzsanna GULÁCSI : A Visual Sermon on Mani's Teaching of Salvation. A Contextualized Reading of a Chinese Manichaean Silk Painting in the Collection of the Yamato Bunkakan in Nara, Japan	1
Dai MATSUI : Revising the Uigur Inscriptions of the Yulin Caves	17
Takashi MATSUKAWA : The Sino-Mongolian Inscription of 1346 from Qara-qorum	35
Jun NAKAMURA : Two Edicts of the Mongol Emperor Möngke	55
Georges-Jean PINAULT : Bilingual hymn to Mani. Analysis of the Tocharian B parts	93
Simone-Christiane RASCHMANN : Baumwoll-Nachlese. Vier alttürkische <i>böz</i> -Dokumente aus dem Arat-Nachlaß (Istanbul)	121
RONG Xinjiang : The Scattered Qarluq Tribe in A.D. 662-663 as Seen in Newly-discovered Turfan Documents (Tr. by Yōko NISHIMURA)	151
Volker RYBATZKI : Farbigkeit und Vielfalt. Einiges zum Pfau und seinen Bezeichnungen in den zentralasiatischen Sprachen	187
Jens WILKENS : Musings on the Manichaean "pothi" book	209
Bibliography of Prof. Takao MORIYASU	233

The Society of Central Eurasian Studies

2 0 0 8